

大規模事業検証会議 事業の相対評価

事業の相対評価については、以下の表（全7事業の評価点数）の通り、合計点数からみると、1位が「大和中学校体育館耐震補強事業」、2位が「認定こども園整備事業」と「総合児童センタープール棟建替え事業」、4位が「市民葬祭場整備事業」、5位が「大和中学校体育館建替え事業」、6位が「アーバンアクア広場整備事業」と「図書館整備事業」となった。「消防署白子分署整備事業」については、事業前提の問題から評価点をつけることができず、定性的な評価のみとした。

事業の手法により「建替え」と「耐震補強」に分けて評価した大和中学校の体育館の整備事業については、中学校を利用する生徒の安全、そして災害時には地域避難所機能を持つことから避難を予定する地域住民の安全も確保するという観点から、安全な空間が確保されることに向けて早急に何らかの整備に着手するという点について異論はなく、市民の生命を守ることは市行政が実施する事業の第一の機能と認識され、議論された。よって、他の事業と比べて緊急性が高く、優先度は高いが、「建替え」か「耐震補強」か、という実施方法を相対的に比較した結果では、建替えより耐震補強を優先すべきとした。このことから、限られた市の予算で、様々な事業を行わなければならないという点からは、安全という同じ価値が実現されるならば、費用が安価な耐震補強について、高い点数となった。

なお、図書館整備事業については、具体性が見えないため全体的に低い点数となっているが、会議としての期待度は高い。また、アーバンアクア広場整備事業については、非常に具体的な事業説明や、適切な情報提供はあったものの、県との協定を締結している状況を除き、緊急性が低く、波及効果もあまり望めないのではないかと、という結論に至り、相対的に低い点数となった。

表（全7事業の評価点数）

		アーバンアクア広場整備事業	大和中学校体育館建替え（または耐震補強）事業		図書館整備事業	消防署白子分署建替え事業	市民葬祭場整備事業	認定こども園整備事業	総合児童センタープール棟建替え事業
			建替え	耐震補強					
(1)	緊急性 緊急性があるか	1	1	5	1	-	1	1	1
(2)	目的の妥当性 市民ニーズがあるか	1	1	5	1	-	1	2	2
(3)	公平性 特定の個人や団体に受益が偏っていないか	1	1	4	1	-	3	3	3
(4)	効率性 コスト削減を図る改善余地がないか（費用対効果）	1	1	3	1	-	1	2	1
(5)	手法の適正化（代替案） 他の手法がないか	1	1	3	1	-	1	1	1
(6)	成果（効果） 波及効果があるか	1	3	3	1	-	2	2	3
合計点数		6	8	23	6	-	9	11	11